



論点整理に向けて

名古屋学院大学 准教授
パブリック・ハーツ(株)
水谷香織

- 地域の関心者、関係者と勉強会からはじめる。
 - 国の理念、地域の理念、地域生活圏の理念、
現状把握、短期～超長期の未来予測、
未来デザイン(最善／成り行き)、
方針、方策、計画づくり
- 進め方
 - トップダウン／ボトムアップ／
一部先行型(例えば、トランジション・マネジメント)など
 - 機が熟すまで、無理に合意形成(意思決定)しない



問題解決のための適動設計

- 「和の実学」に基づく問題解決手法
- 問題解決過程の標準考程



指針確立 ①理念設定

問題分析 ②案件設定

方法立案 ⑥方針設定
⑦方策探究

態勢実現 ⑧計画探究

③現状把握

現状

現在

最高の未来

⑤予悔充足

最悪の未来

上極来果

④来果探究

正面来果

将来



- 各局面における情報処理(発求→取材→加工→配備→発用)
- 情報統合技術(IST)の利用

4大認識形成法の中の「発想法」(他:感得法、帰納法、演繹法)



プロセスマップの例

フェーズ 参加の場	教育	ビジョン	ニーズ	問題特定と 分析	代替解決策	シナリオ	評価	決定	ゴール
承認委員会		CEO ○							
運営委員会	●	●	●	●	●	●	●	●	●
プロジェクト チーム	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他				A ○ B ○ C ○ 小問題ごと	★			地域MTG	★
結果	基本規則	ビジョン提示	ニーズ評価	問題提示	報告書	中間報告書		最終レポート 実施計画	
記号	○ プロジェクトチームMTG ● 運営委員会MTG 一連のミーティング 決定 報告書 ★ 打上げ								

デイヴィッド ストラウス (著), 斎藤 聖美 (翻訳), チームが絶対うまくいく法, 日経BPマーケティング, 2004.



トランジションマネジメント

- 持続可能な未来社会を目指すのであれば、草の根活動を越えた、**社会経済構造の変革・転換・移行(トランジション)の方法論**を検討する必要があります。しかし、トップダウンで新たな社会経済構造を強制導入する方法論(革命のようなもの)ではなく、変革の対象たる人々の民主的な参加が現代社会における政策プロセスには必要でしょう。
- **トランジション・マネジメント**は、持続可能な社会に向けて、ステークホルダーの合意形成を模索するのではなく、持続可能な社会に貢献する**技術ニッチ(niches)**を特定し、それらを現場で**小規模に試行**することで、技術ニッチと従来の社会経済構造を対峙させることで矛盾を明らかにし、ステークホルダーを支配する**社会経済構造に再帰性(reflexivity)**をもたらし、最終的に、**技術ニッチが「あたりまえ」**になる持続可能な社会へと導く、という考え方。